

株式会社 太陽工機

会社説明・第3四半期決算説明資料

2008年1月31日

- ・ 会社概要
- ・ 業界環境
- ・ 第3四半期実績及び年度業績見通し
- ・ 中期目標

会社概要

1. 会社概要・代表取締役経歴

会社概要

商号	株式会社 太陽工機
設立年月日	1986年3月
本社所在地	新潟県長岡市西陵町221番35
代表者	代表取締役社長 渡辺 登
事業内容	研削盤の製造、販売
売上高	5,465 百万円 (2007年3月期実績)
経常利益	569 百万円 (2007年3月期実績)
総資産額	3,185 百万円 (2007年3月期実績)
従業員数	169 名 (2007年3月期末現在)

代表取締役経歴

1971年3月	東京工業大学工学部生産機械工学学科卒業
1971年3月	株式会社ツガミ入社(1984年6月退社)
1984年7月	ユニオンツール株式会社入社(1986年2月退社)
1986年3月	有限会社太陽工機設立 代表取締役就任
1988年5月	株式会社太陽工機に組織変更 代表取締役(現任)

企業理念・経営方針

私たちは、先進的技術を駆使した製品を創造し、
精密加工を通して世界の製造業の発展に貢献する

1. 内外の法令を遵守し、フェアな企業活動に徹する
2. イノベーションを追求し、最先端の技術力と提案力で
社会に貢献する
3. 企業価値を高め、顧客、従業員、株主、その他のステーク
ホルダーに報いる

3. 会社の沿革

年月	概要
1986年3月	工作機械の設計、製作を目的に有限会社太陽工機創業
1988年5月	株式会社太陽工機(資本金5,000千円)に組織変更
1989年10月	立形研削盤(専用機)を開発
1990年10月	立形研削盤(汎用機)を開発して、シリーズ化
1994年3月	(株)池貝が資本参加(持株比率64.0%)
2001年5月	(株)森精機製作所が資本参加(当初持株比率40.0%)
2005年6月	本社工場を新潟県長岡市雲出工業団地に新設
2005年10月	立形研削盤NVGシリーズ(標準機)を開発
2007年3月	立形研削盤SVGシリーズ(標準機)を開発
2007年12月	ジャスダック上場

4. 当社の特色

当社の 特色

1. 立形研削盤を最初に開発・販売
2. タレット技術で優位
3. 複合化技術で優位



顧客価値の追求

加工精度の向上

生産効率の向上(工程集約)

弊社の 研削盤の 技術的 特徴

- 研削盤における精度・剛性を高めるため1989年に業界初の**立形研削盤**を開発
 - 研削砥石を立に設置することで重力に対して垂直に回転させるため物理的に剛性が高く高精度を実現
 - ワークを垂直方向へ設置するため操作性が高い
 - 垂直方向に駆動するため省スペース化に寄与
- スループットを高めるための数値制御研削盤、複数の加工を網羅する**複合研削盤**の開発に注力



NVG



重量:10t ~ 20t

定価:3,000万円 ~ 7,000万円

SVG



重量:2t ~ 2.5t

定価:1,400万円 ~ 2,600万円

*** 実際の重量・価格は、仕様により異なります**

6. 主要製品紹介(加工工程)



内面加工



外径加工



端面加工

内面研削と外径研削の2軸装備

加工対象物にあわせ砥石を自動交換



プログラム制御により複数工程を集約
顧客の作業効率改善

主なユーザー

自動車



トランスミッション ・ シャフト

航空機



シリンダ関連部品

ベアリング



内輪・外輪部品

建設機械



シリンダ部品

主な加工物



トランスミッション用ギア関連部品
(自動車など全般)



スピンドル
(工作機械の重要部品)



砥石軸用部品(工作機械)

サブミクロン(1万分の1ミリ)単位の精度を追求



ハイテク日本の礎 ~ 日本を支える当社の研削盤
精密機械における重要部品の最終加工を担当

工作機械 スピンドル

半導体製造装置 ステッパー

多関節ロボット 減速機

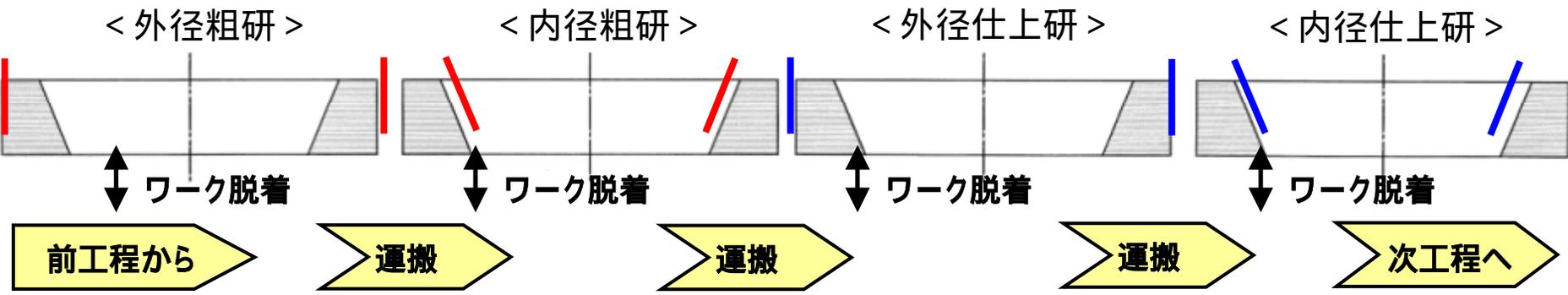
半導体関連 セラミック治具

日本メーカーの製品高精度化・競争力強化に寄与
グローバルマーケットへの優位性に貢献

大型軸受の工程革新(具体例)

従来工程 : 脱着、運搬が必要

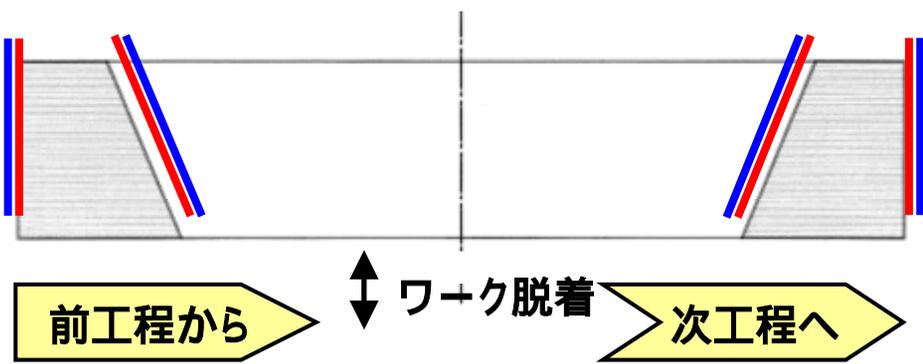
ワークサイズ
 ・ 400 ~ 1000
 ・ 重量 数十 ~ 百 kgf
 ・ 流れるロット 最大10ヶ/ロット



提案工程 : 1チャックで粗~仕上まで可能

利点(工程集約前に比べて)

- ・ 研削コスト1/5目標
- ・ 精度向上
- ・ 納期大幅短縮
- ・ 少ロット製品の工数 1/10目標



主要製品

■立形研削盤

- ・当社の独自技術
- ・垂直方向からワークピースを削る
- ・重力の影響を受けず研削精度向上
- ・省スペース
- ・NVGシリーズ、SVGシリーズ

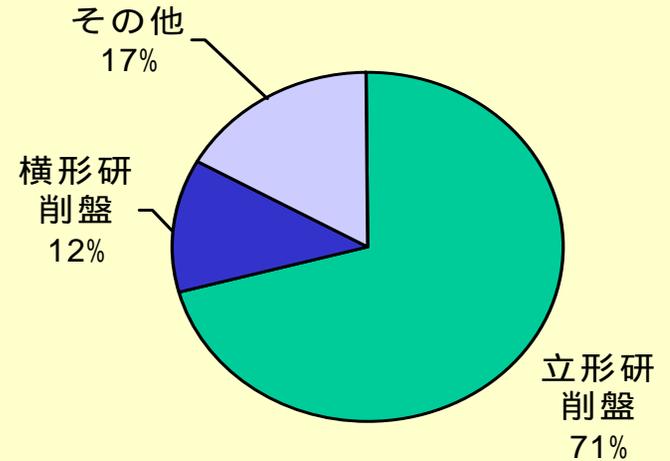
■横形研削盤

- ・水平方向からワークピースを削る
- ・スピンドルの内外径・端面・テーパ加工に適合
- ・IGTシリーズ、CGNシリーズ、MGSシリーズ

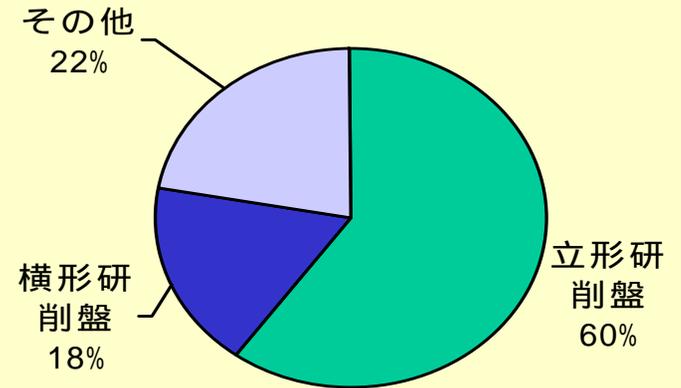
■その他の専用研削盤

- ・特定ユーザーに対応

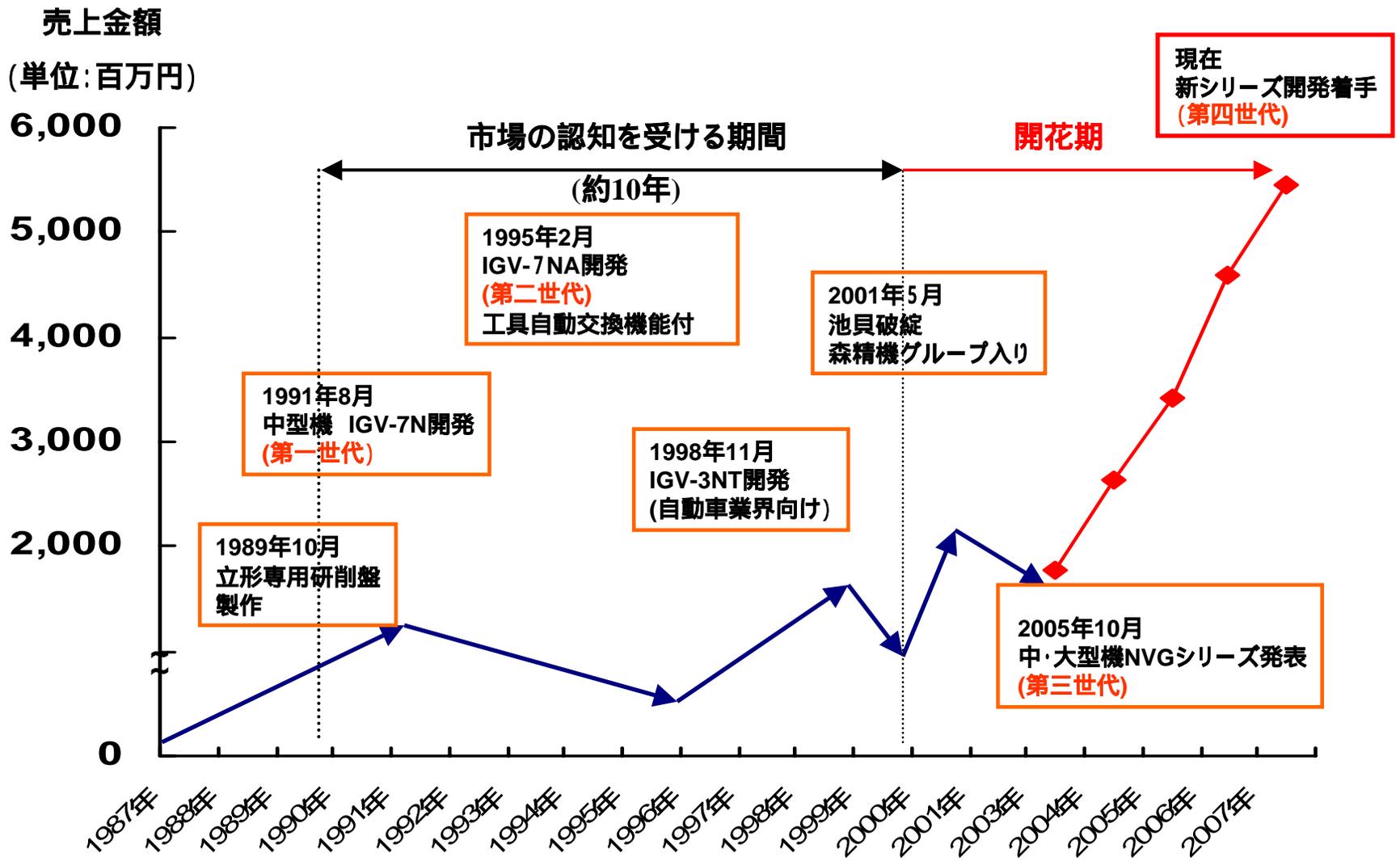
立形・横形・その他の構成比(受注実績:2007年3月期)



立形・横形・その他の構成比(売上実績:2007年3月期)



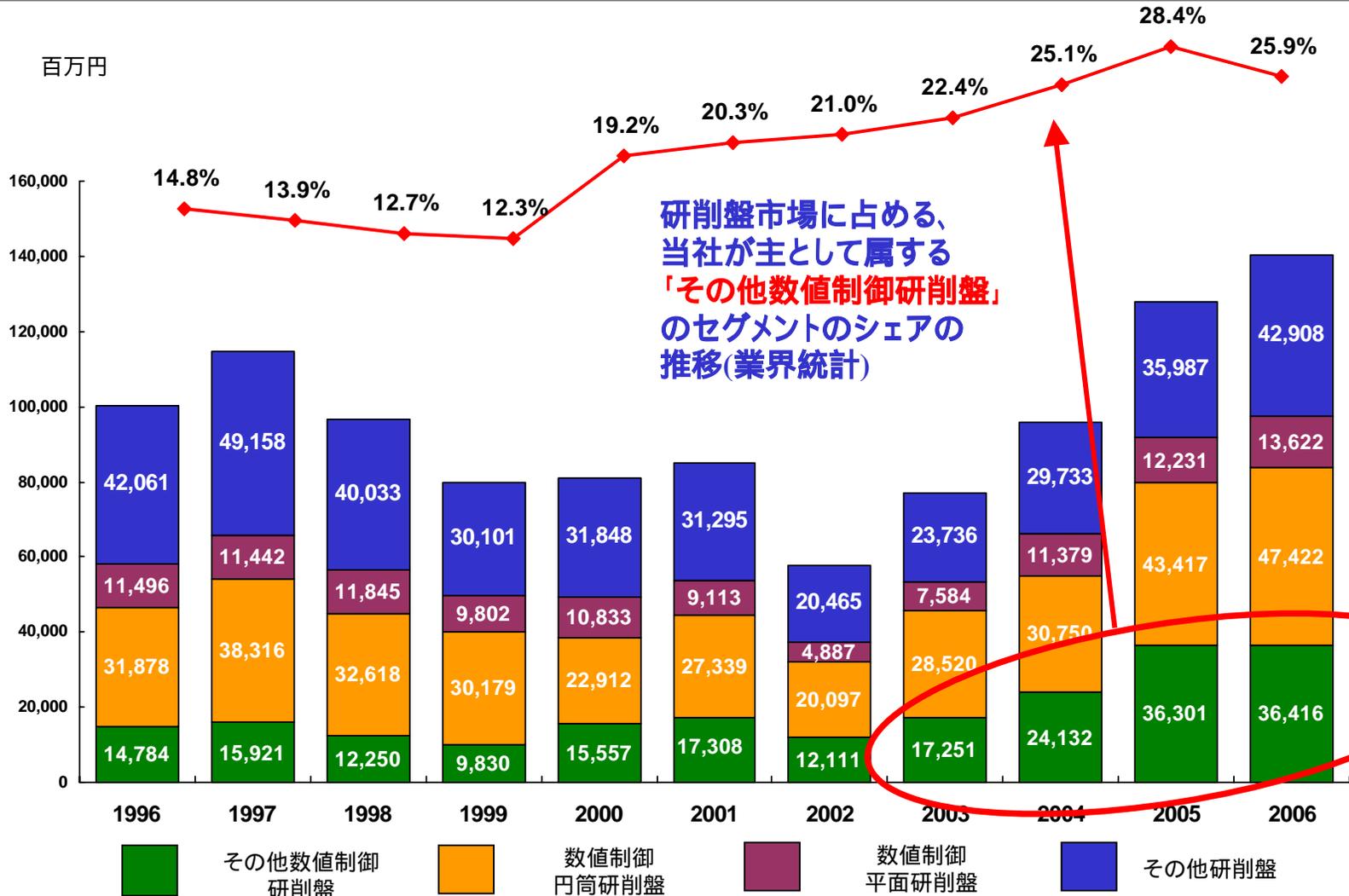
11. 企業サイクル



業界環境

12. 研削盤市場の種類別規模の推移(業界動向)

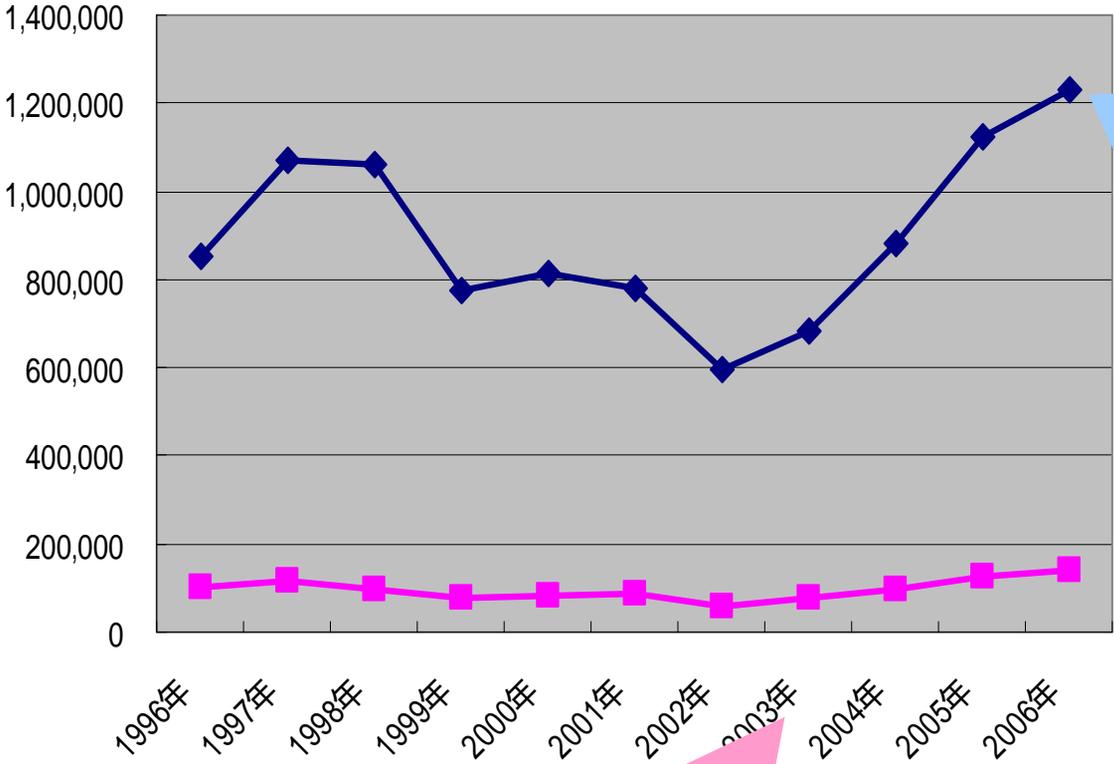
研削盤市場(販売高)



(出所) 社団法人日本工作機械工業会

国内工作機械業界と研削盤業界販売高の推移

(単位: 百万円)



(出所) 社団法人日本工作機械工業会

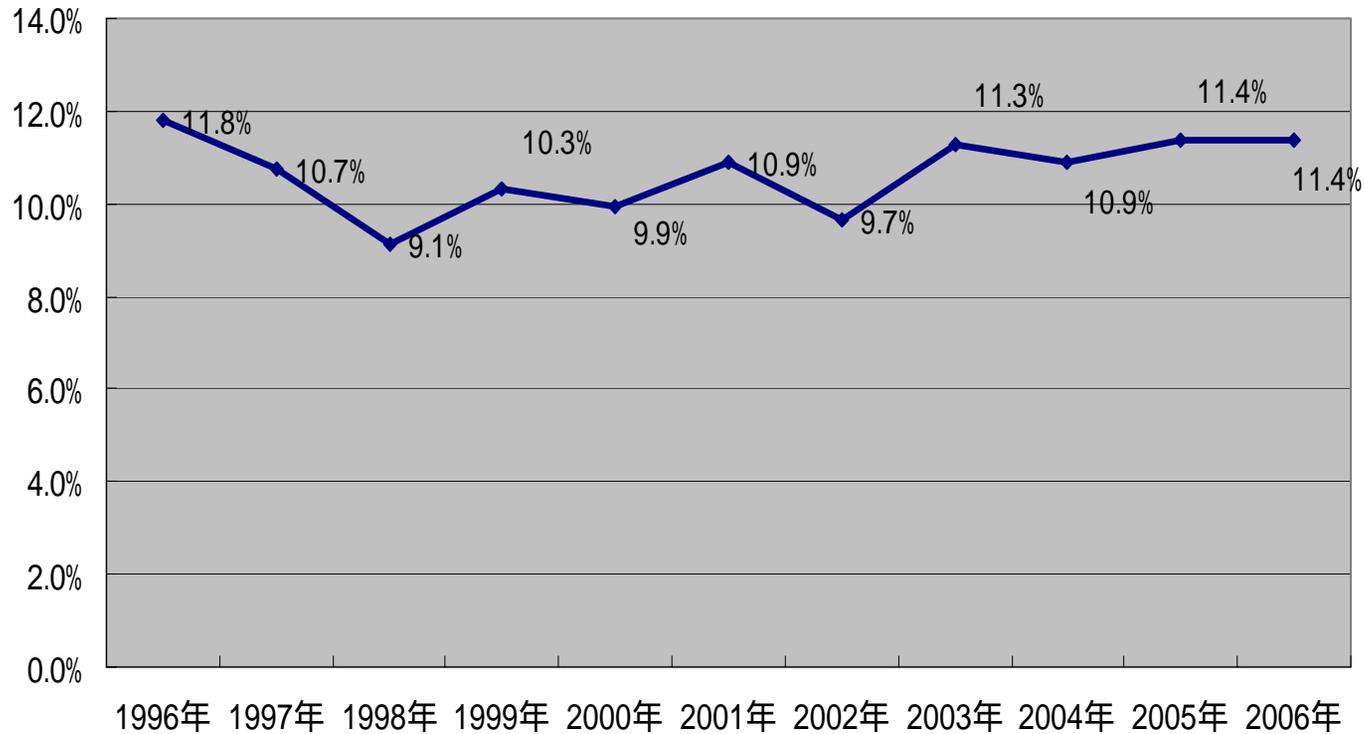
**世界の工作機械市場規模は
59,548.9百万ドル
海外競合メーカーは欧州
(ドイツ・スイス等)に集約**

(出所) METALWORKING Insider's Report
/ Gardner Publication ,inc
(2006年 生産金額ベース : 切削・成形とも含む)

**工作機械業界における
研削盤市場シェアは約10%**

13. 工作機械市場と研削盤業界

工作機械業界にしめる研削盤業界シェア



(出所) 社団法人日本工作機械工業会



- 当社の特徴**
- ▶立形に注力
 : 精度及び剛性を高め、また、機械設置の省スペース化に対応
 - ▶高精度対応
 : 工作機械・自動車部品・産業機械部品などのミクロン (0.001mm) 精度要求に対応
 - ▶汎用化
 : 砥石を交換できるタレットを標準装備し、かつ内径・外径両方の研削ができるなど汎用性を追及
 - ▶ラインナップの充実
 : 小型機から中大型機まで顧客ニーズに対応

第3四半期実績及び年度業績見通し

15. 第3四半期決算:損益計算書

	2007年3月期実績		2008年3月期中間実績		2008年3月期第3Q実績	
	金額(千円)	増減率(%)	金額(千円)	増減率(%)	金額(千円)	増減率(%) (注)
売上高	5,465,390	19.3	3,185,223	13.7	4,556,298	13.8
営業利益	597,623	25.9	472,115	47.2	539,337	27.5
(営業利益率)	10.9%	-	14.8%	-	11.8%	-
経常利益	569,949	33.4	451,087	47.0	488,062	20.9
当期純利益	288,059	24.9	266,953	85.1	285,856	42.6

(注) 2008年3月期の第3四半期から、四半期監査を始めております。従って、2008年3月期第3四半期の増減率は、前年同期間の未監査の数値と比較した参考数値であります。

【2008年3月期第3四半期実績】

- 業績は、ほぼ計画通りに推移し、売上13.8%増、営業利益は27.5%増となりました。
(弊社では、顧客の納期都合により、第1Q、第3Qの売上がやや小さくなる傾向にあります)
- 第3四半期の収益性はやや低下しておりますが、上記の季節要因による売上の傾向に加え、
上場費用が発生したことによります。
- 受注残高は4,124百万円となり、2007年3月期末比33.8%増となりました。

製品別受注高				
	2008年3月期中間実績		2008年3月期第3Q実績	
	金額(千円)	増減率(%)	金額(千円)	増減率(%) (注)
立形研削盤	2,746,743	101.8	4,072,664	—
横形研削盤	487,234	49.2	698,834	—
その他専用研削盤	356,732	46.7	515,795	—
合計	3,590,710	86.0	5,287,295	—
製品別売上高				
	2008年3月期中間実績		2008年3月期第3Q実績	
	金額(千円)	増減率(%)	金額(千円)	増減率(%) (注)
立形研削盤	2,383,651	57.7	3,449,957	—
横形研削盤	468,434	20.6	573,831	—
その他専用研削盤	333,137	52.3	532,509	—
合計	3,185,223	13.7	4,559,298	—

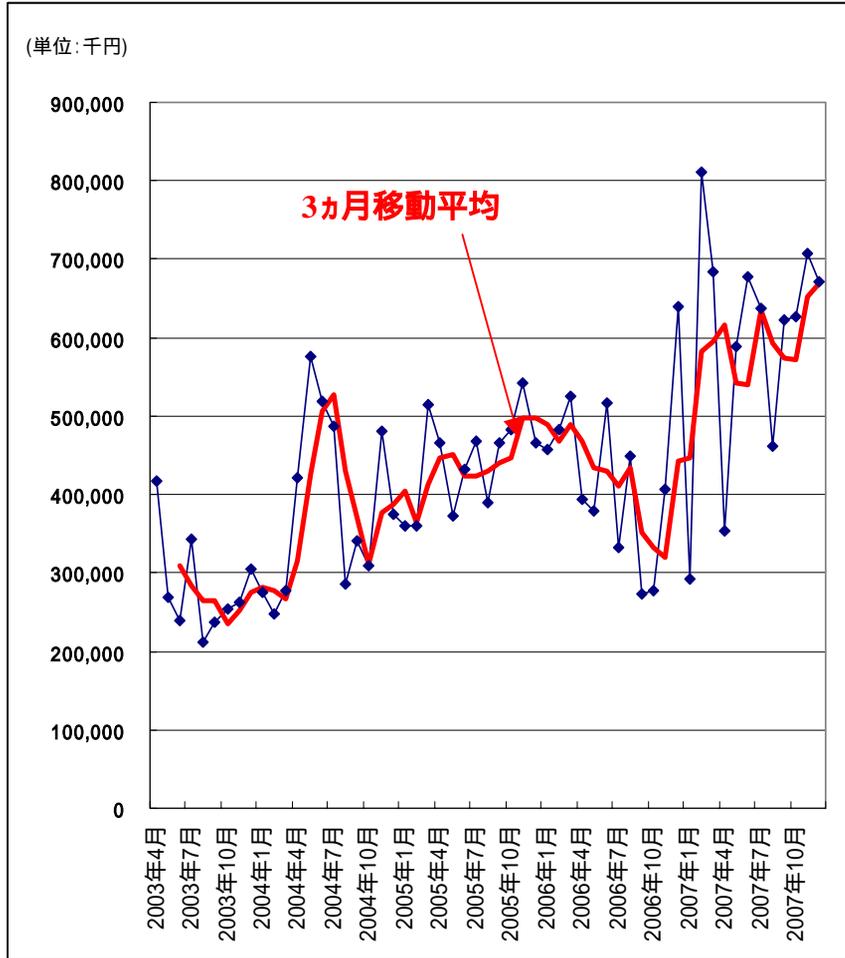
(注) 2008年3月期第3Q実績の増減率については、前年度第3Q決算が未監査のため開示しておりません。

【製品別動向】

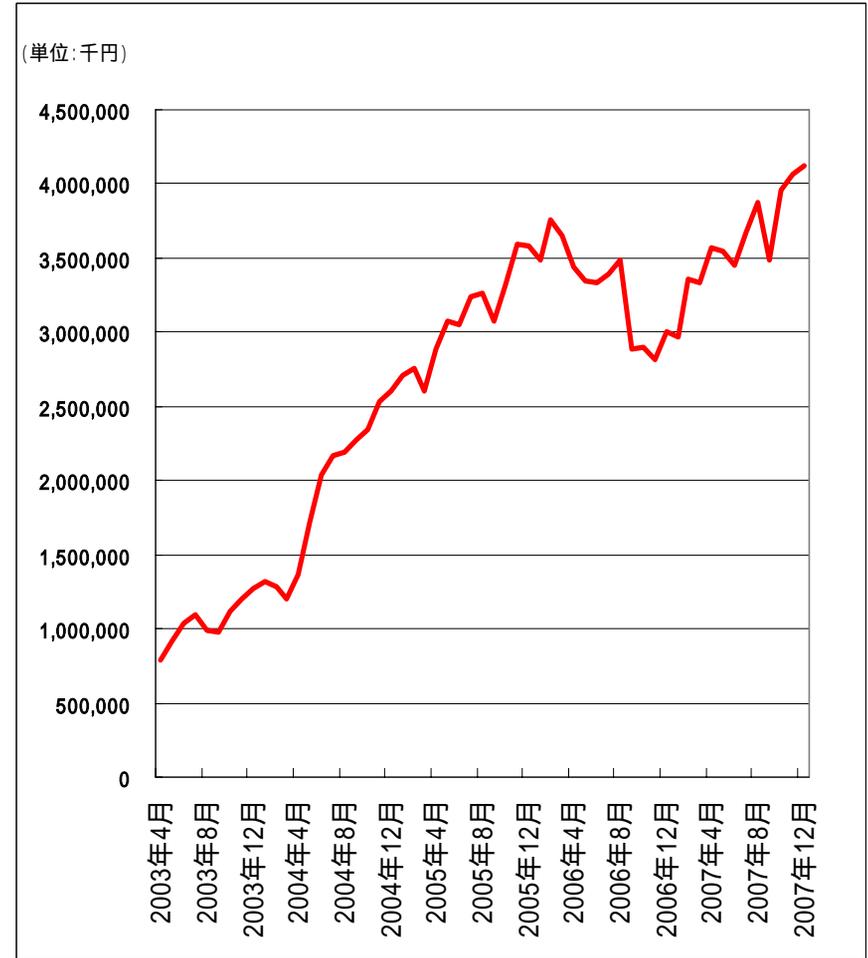
- 主力の立形研削盤は、建設機械、ベアリング、航空機など、重厚長大向けに売上・受注とも好調に推移しております。
- 横形研削盤、その他専用研削盤の売上は、前年度に自動車業界向け受注が調整局面にあったことから売上は落ち込みました。しかし、受注については、自動車向け需要も回復し、増加に転じております。

17. 受注・受注残高推移

受注推移

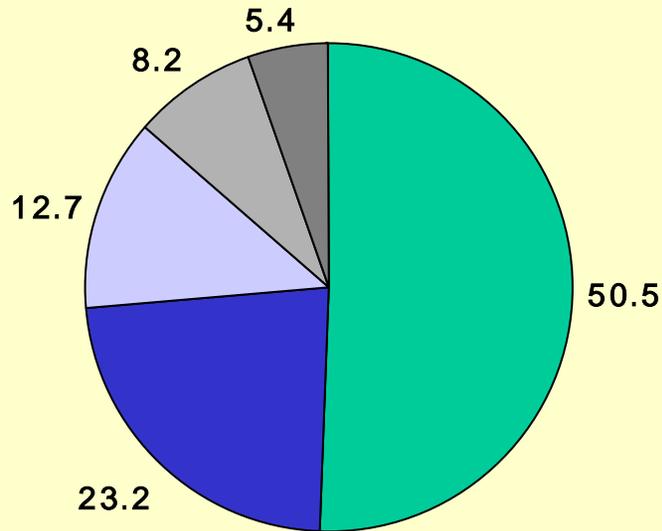


受注残高推移



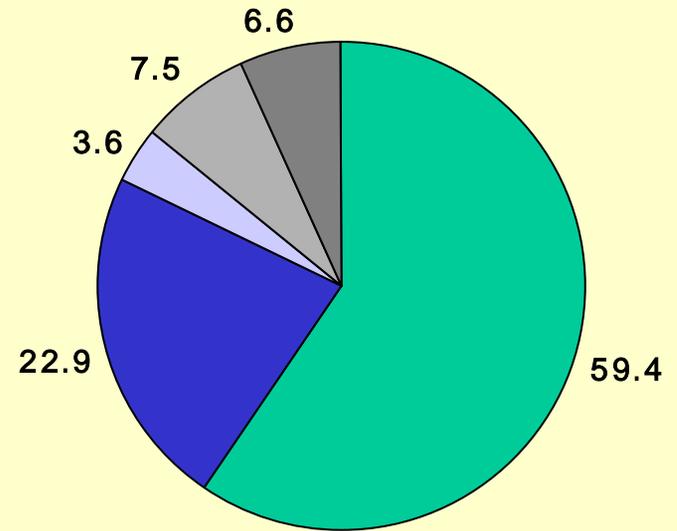
18. 受注の業種別構成比

2007年3月期実績 (%)



- 一般産業機械
- 自動車関連
- 金属製品
- 工作機械
- その他

2008年第3四半期実績 (%)



- 一般産業機械
- 自動車関連
- 金属製品
- 工作機械
- その他

19. 第3四半期実績: 貸借対照表

	2007年3月期実績		2008年3月期中間実績		2008年3月期第3Q実績	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
流動資産	2,613,781	82.1	3,001,703	84.4	2,930,741	84.2
固定資産	571,355	17.9	555,535	15.6	551,898	15.8
資産合計	3,185,136	100.0	3,557,239	100.0	3,482,640	100.0
流動負債	2,053,276	64.5	2,158,426	60.7	1,523,292	43.7
固定負債	0	0.0	0	0.0	0	0.0
株主資本合計	1,131,859	35.5	1,398,812	39.3	1,959,348	56.3
純資産合計	1,131,859	35.5	1,398,812	39.3	1,959,348	56.3
負債・純資産合計	3,185,136	100.0	3,557,239	100.0	3,482,640	100.0
(有利子負債)	1,500,000	47.1	1,500,000	42.2	808,000	23.2

【2008年3月期第3四半期実績】

- 上場に伴う、新株式発行により541百万円の資金調達を行いました。これにより、株主資本比率は56.3%へ上昇しました。
- 調達資金及び余資を有利子負債の削減に当て、財務の健全化に努めました。有利子負債の比率は23.2%へ低下しております。

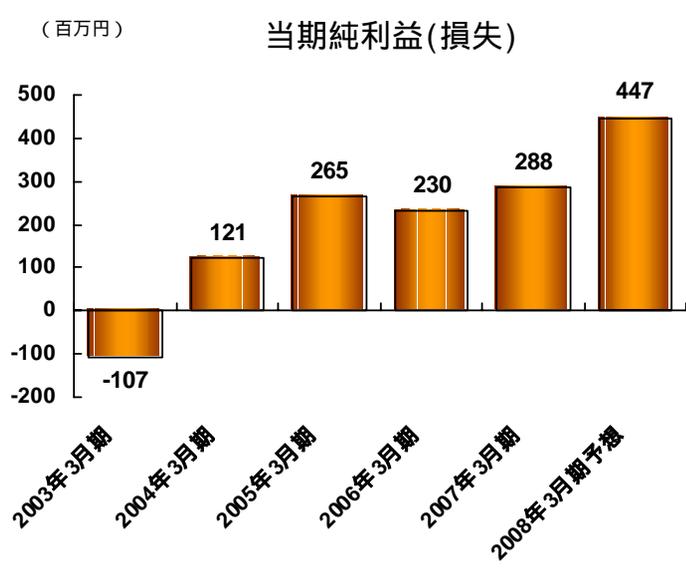
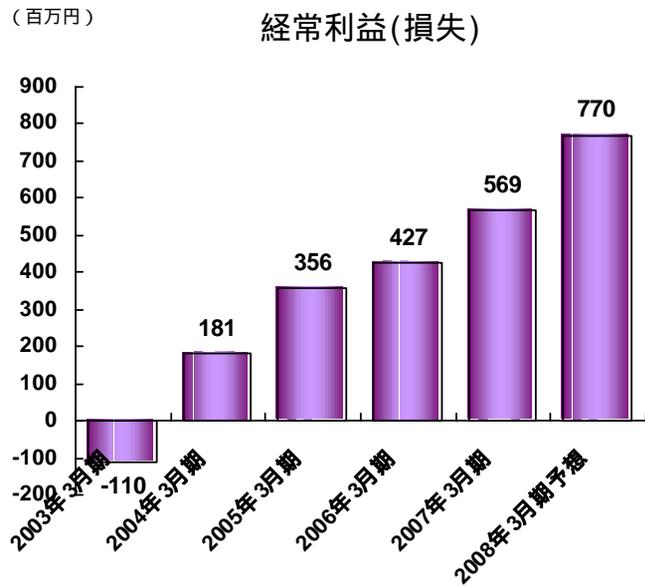
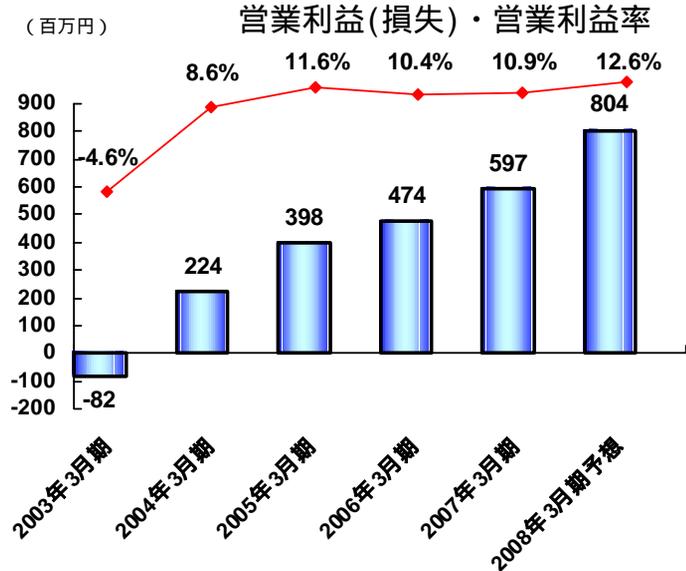
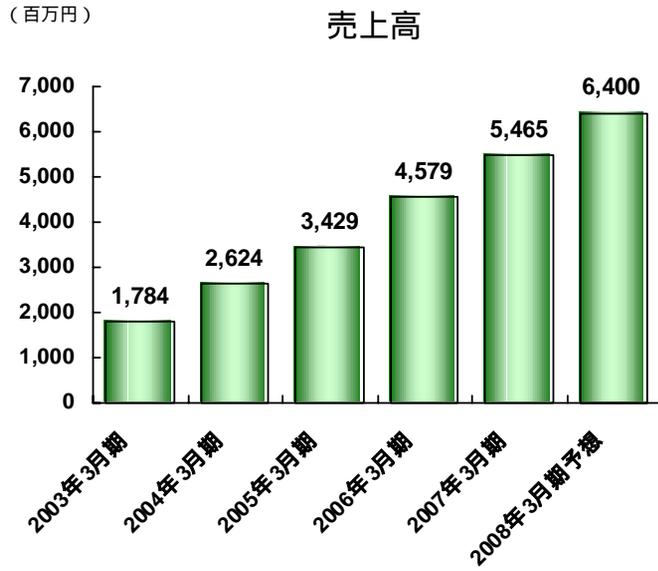
損益計算書	2008年3月期中間実績		2008年3月期予想	
	金額(千円)	増減率(%)	金額(千円)	増減率(%)
売上高	3,185,223	13.7	6,400,000	17.1
営業利益	472,115	47.2	804,000	34.5
(営業利益率)	14.8%	-	12.6%	-
経常利益	451,087	47.0	770,000	35.1
当期純利益	266,953	85.1	447,000	55.2

【2008年3月期業績見通し】

- 豊富な受注残高を背景に、売上17.1%増、営業利益34.5%増を予想しております。
- 営業利益率は、上期の14.8%に対し、年度では12.6%と下期に低下を予想しております。第3Qに発生した上場に伴う一時的な費用に加え、一部プロジェクトに関して採算を慎重に織り込んでおります。
- 年度の受注金額は、34.7%増の71億円を見込んでおります。

第4Qも一般産業機械向けの受注は順調に推移する見通しです。

21. 2008年3月期予想:業績推移



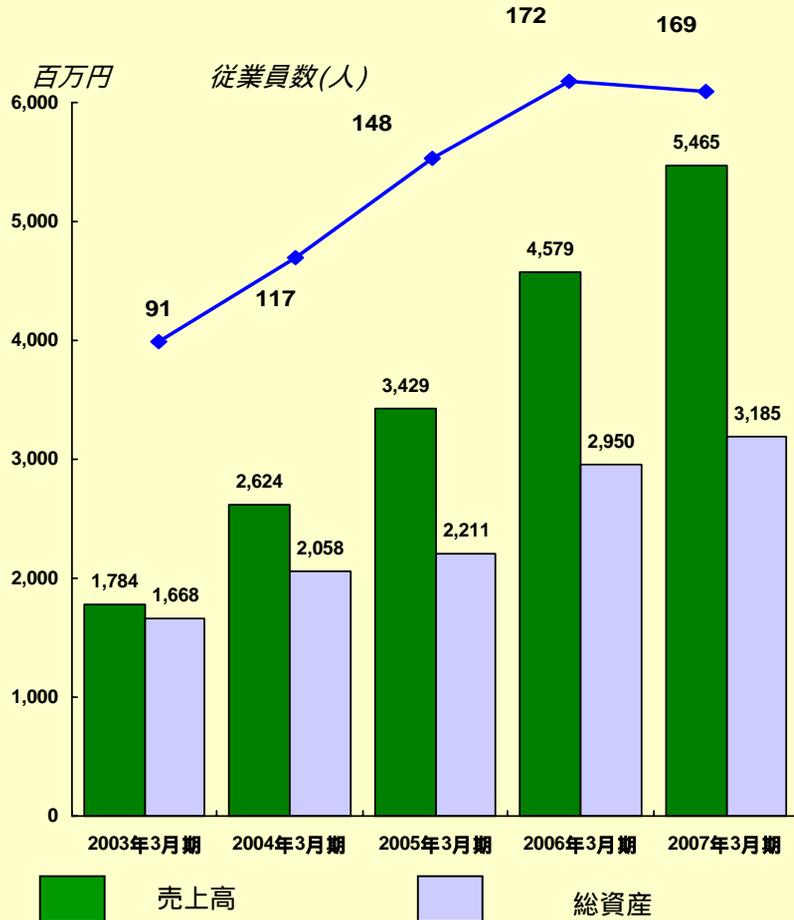
製品別売上高				
	2007年3月期実績		2008年3月期予想	
	金額(千円)	増減率(%)	金額(千円)	増減率(%)
立形研削盤	3,258,178	59.6	4,943,898	51.7
横形研削盤	987,730	18.1	602,152	39.0
その他専用研削盤	1,219,481	22.3	853,950	30.0
合計	5,465,390	100.0	6,400,000	17.1

【製品別動向】

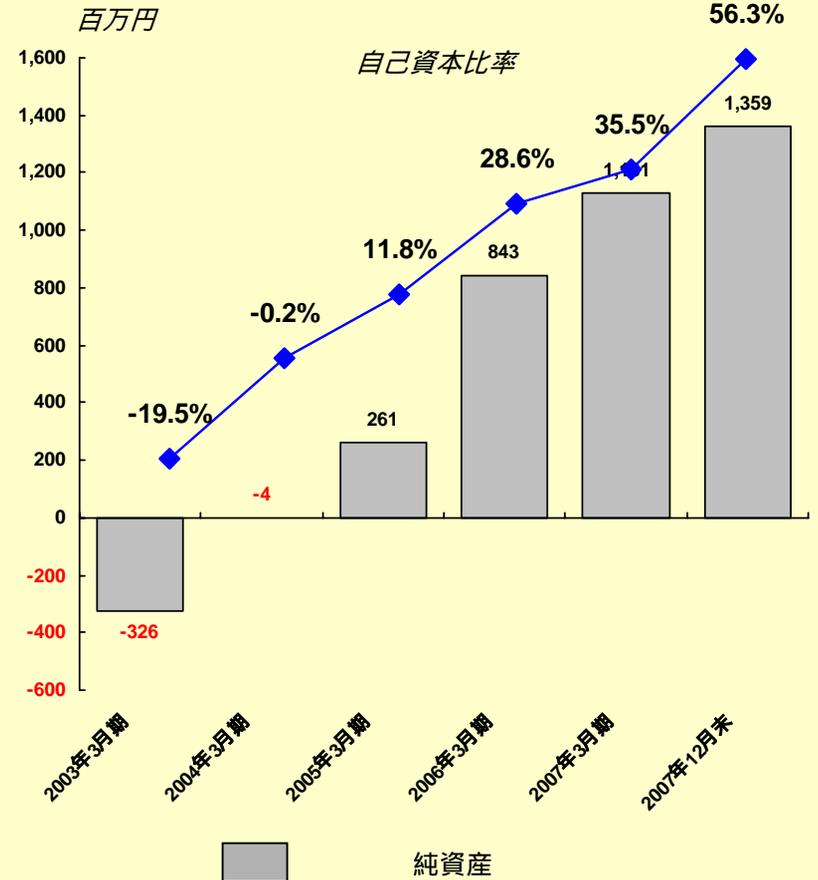
- 立形研削盤は、前年度後半から増加した受注が売上に寄与する見込みです。特に、建設機械、軸受などの産業機械業界向けに中・大型機が売上に寄与する見通しです。
- 横形研削盤、その他専用研削盤は、前年度後半に需要が調整局面にあったことから、その影響を受け売上は減少する見込みです。
- 横形研削盤については、付加価値の高い複合研削盤を開発・投入し営業強化してまいります。
- 自動車業界向けは、乗用車・トラック等のミッション向け小型立形研削盤を強化してまいります。

23. 業績の推移

売上高・総資産・従業員数



純資産・自己資本比率



中期目標

Vision

- 研削盤市場シェアNo.1
- 業界最高水準の収益性確保
(顧客価値提供の最強企業を目指す)

財務目標 及び 経営施策

➤ 財務目標

売上高： 100億円

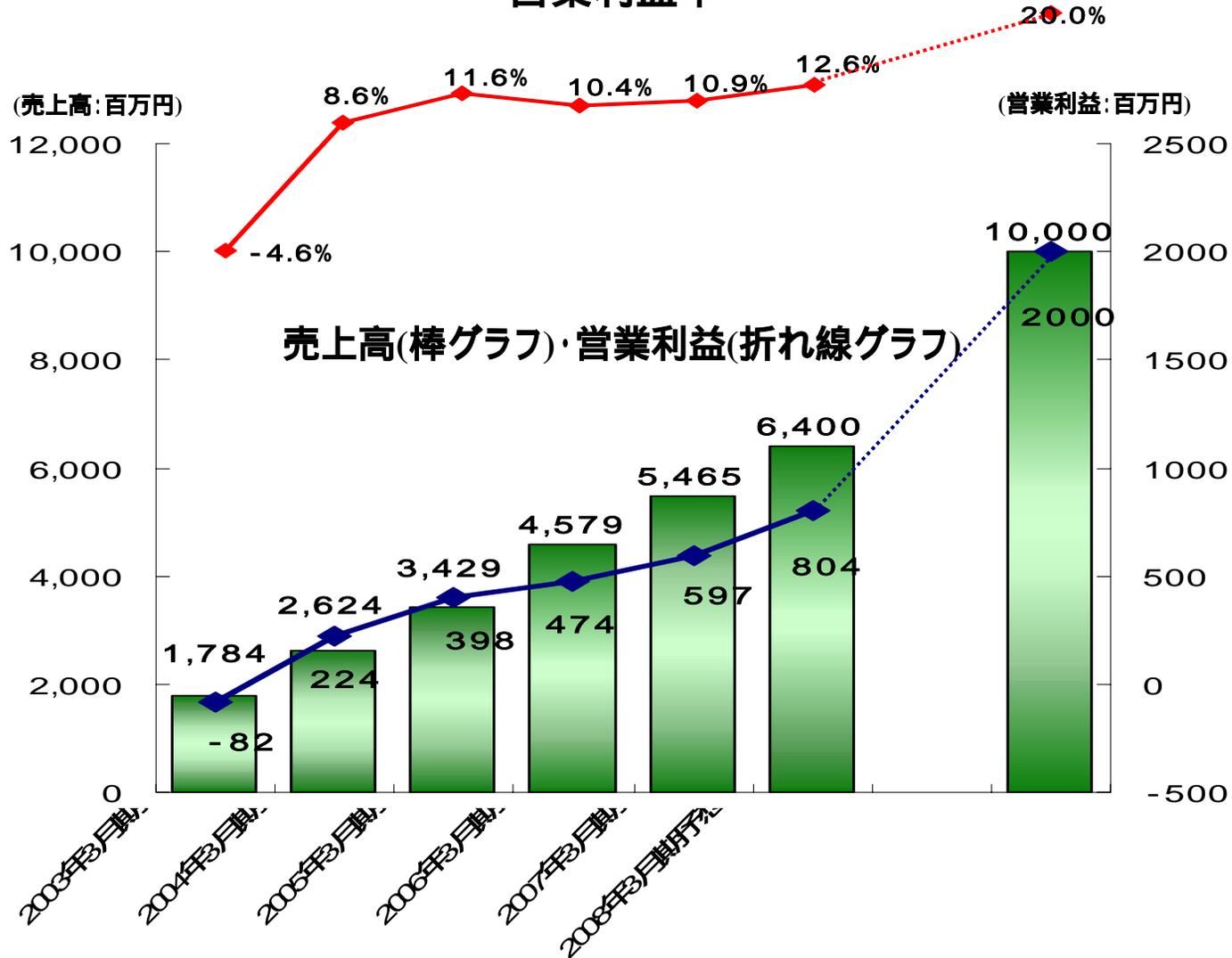
営業利益： 20億円

(営業利益率： 20%)

➤ 経営施策

- ・ 地域戦略 ~ 海外売上比率30%目標 (米国市場の開拓)
- ・ 顧客戦略 ~ 産業機械分野の深耕 (環境技術、インフラ対応など)
自動車の高付加価値分野に焦点 (ミッション系部品など)
- ・ 効率重視 ~ SCMの見直し (設計、部品、生産の標準化)
- ・ 能力拡大 ~ 新工場の建設 (大型機需要拡大に対応)

営業利益率



お取り扱い上のご注意

本資料は、当社をご理解いただくために作成されたのもので、当社への勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の情報は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。

お問い合わせ先 株式会社太陽工機 管理部

TEL : 0258-42-8808

URL : <http://www.taiyokoki.com>

